



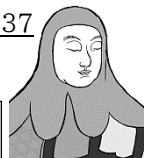
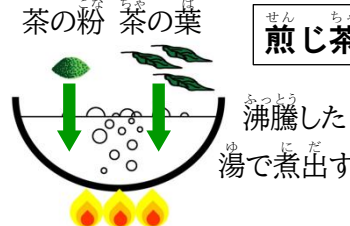

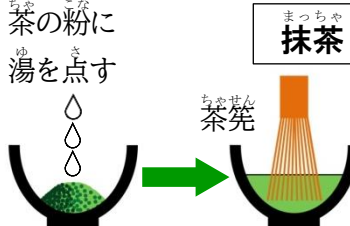


博物館チャレンジシート 2

学校 年 組 名前

このシートの使い方

- このシートはお茶について調べるものです。(「茶の世界」展示室)
- 展示を見たり、説明を読んだりして気づいたことや考えたことを書きましょう。
- わからないことがあったら博物館の人や先生にたずねましょう。
- えんぴつだけを用意しましょう。

1 中国から日本へ、お茶は3回伝わってきました。展示を見て、下の表をまとめてみましょう。

伝わった時期	伝えた(広めた)主な人物	伝わった飲み方	○主にお茶を飲む人 ▲お茶を飲む場面 □お茶の栽培地
第1期伝来 約 <input type="text"/> 年前 中国の時代 <input type="text"/> 日本の時代 <input type="text"/> 平安時代	p.36~37  最澄 804年に遣唐使として中国にわたった人です。	茶の粉 茶の葉  煎じ茶 沸騰した湯で煮出す <input type="text"/>	○僧侶、貴族。 ▲朝廷や寺院で行われる儀式。 ▲仏教の儀式でのお供え物。 □畿内(京都・奈良)とその周辺。
第2期伝来 約 <input type="text"/> 年前 中国の時代 <input type="text"/> 日本の時代 <input type="text"/> 鎌倉時代	p.60~61  栄西 中国に2度わたり『喫茶養生記』を書いた人です。	茶の粉に湯を点す  抹茶 茶先 <input type="text"/>	○僧侶、貴族、武士。 ▲寺院での儀式や、禪宗の寺での修行。 ▲茶の種類や産地を飲み当てる闘茶の会。 ▲茶の湯。p.62~64 □各地の寺の境内。
第3期伝来 約 <input type="text"/> 年前 中国の時代 <input type="text"/> 日本の時代 <input type="text"/> 江戸時代	p.85  隠元 63歳のとき中国から来日し、長崎に上陸しました。	煎茶  急須 茶の葉 染み出たエキスを飲む <input type="text"/>	○庶民。 ▲日常生活。 ▲茶店。p.88~89 □畑の境(垣根)。 □この時代、抹茶の生産は宇治(京都府)だけに認められる。

2 第2期伝来以降、各地の寺の境内茶園でお茶が栽培されるようになりました。このころ、武蔵国(埼玉県)で生産された、狭山茶の起源となるお茶は何茶でしょうか。

① 川越市にある中院が生産の中心だったお茶です。

② 鎌倉時代に、栄西の弟子の栄朝が住職を務めた、ときがわ町にある慈光寺で生産されたお茶です。

3 戦国時代に武蔵国(埼玉県)でのお茶作りは廃れてしまいます。その後、今から約200年前の江戸時代後期、狭山丘陵のふもとに住む吉川温恭と村野盛政たちが、新たに煎茶作りを始めます。この煎茶が、今に続く「狭山茶」となりました。



吉川温恭

① 江戸時代後期の文政3年(1820)、お茶を作っていた農家は主にどこにあったでしょうか。下の地図に範囲を線で囲んでみましょう。



② 狭山丘陵のふもとに住む人たちは、どうして新たに茶作りを始めたのでしょうか。その理由を考え、下の文章を完成させましょう。

水はけが良く、水田稲作に不向な

の農村では、毎日の食事に困るほど生活が苦しかった。

そこで、江戸で人気の を作って売れば、少しでも村の生活が豊かになると考えたため。

4 1832年、数百年ぶりに武蔵国で茶作りを復興した記念として、狭山丘陵のふもとの出雲祝神社(入間市宮寺)に「重関茶場碑」が建てられました。「重ねて関く」とはどのような意味でしょうか。展示パネルを読んで答えましょう。

